

平成30年度国内施設視察会

東京・お台場地区のメガウェブで開催

モータースポーツをテーマに試乗会とトークライブを実施

日 本自動車会議所は2018年12月18日、「平成30年度国内施設視察会」を開催した。今回は、「モータースポーツ試乗会&トークセッション」と題して、自動車メーカーのモータースポーツへの取り組みについての理解促進を目的に、東京・お台場地区にあるメガウェブのRIDE ONE試乗コースを貸し切った試乗会を実施。また、同会場内のMEGAスクリーン前に特設スペースを用意してトークライブを行った。参加者は34名。

参加者は、MEGAスクリーン前特設スペースに集合の後、まずノーマル仕様のトヨタ・ヴィッツに3名ずつに分かれてRIDE ONE試乗コース（1周約1.3km）で同乗試乗を行い、プロドライバーによる運転で本来の性能を体感した。

その後、MEGAスクリーン前特設スペースにて、トヨタ自動車(株)GRマーケティング部主査の北澤重久氏、自動車ジャーナリストの今井優杏氏による「TOYOTA GAZOO Racingについて ～トヨタのモータースポーツ活動」をテーマとしたトークライブが行われた。

両氏からは最初にモータースポーツとは何か、またどのようなレース、カテゴリーがあるか、各自動

車メーカーはどのクラスに参戦しているかなど、一般の人にも分かりやすく解説していただいた。続いて、トヨタ自動車(株)が参戦しているレースやサーキットの様子、レース活動に取り組む意義、自動車製造業の発達に必要な不可欠のものとして、レース活動を通じてクルマ全体を視る力『技能・技術・考え方・人間力』を身に着けていきたいなど、レース活動に対する企業方針を講演いただいた。その中では、レースの現場でも「改善」の思想を重要視し、豊田章男社長を筆頭に取り組んでいるとの説明もあった。

トークライブ終了後、スポーティバージョンであるGR仕様のヴィッツにプロドライバーの運転で同乗試乗を行い、最初に試乗したノーマル仕様のヴィッツとの違いを体感した。ノーマル仕様との大きな違いは、サスペンション、ブレーキなど足廻りの強化やボディ補強、スポーツシートなどの採用であるが、乗り心地は幾分犠牲にはなるものの、スポーティに走行した場合はクルマの姿勢の安定度が高くスムーズであり、比較試乗したことでその違いがよく体感できた。

GR仕様の試乗セッションを終え、視察会は解散となった。

ノーマル仕様の「ヴィッツ」に試乗体験後、スポーティバージョンのGR仕様にも試乗①。プロドライバーの運転により性能をリアルに体感②



多様なシチュエーションで走行することでノーマルとGRの違いを体感③、特設スペースで自動車ジャーナリストの今井優杏氏(左)と、トヨタ自動車GRマーケティング部主査の北澤重久氏(右)によるトークライブを開催④